



第19弾

ありたい姿 探検記



前回のおさらい

トピック

- ・第2回ゼロカーボン推進町民会議
- ・ゼロカーボン実現の町民アイデア紹介
- ・気候変動の原因は、人為的に排出するCO2にあり！
- ・日用品が手に届くまでに排出されるCO2は？

先月号は、10月に開催した「第2回ゼロカーボン推進町民勉強会」の様子についてご報告しました。今月は、この1年の「ありたい姿探検記」を振り返り、私たちの「ありたい姿」を考えていきたいと思います。

多かったテーマはまちづくり、気候変動

今年の「ありたい姿探検記」で多かった内容はSDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」と、目標13「気候変動に具体的な対策を」でした。まちづくりについては今年がまちの計画を立てる

節目の年であり、気候変動については世界が注目し、喫緊の課題として取り上げていたため、テーマになることが多かったと今年を振り返っています。

そんな中、11月にはCOP27という国連の気候変動対策の会議がエジプトのシャルム・エル・シェイクで行われ、10か国以上の首脳が出席して気候変動の交渉がされました。日本は残念ながら3年連続で気候変動対策に後ろ向きな国に贈られる「化石賞」に選ばれてしまいました。理由としては、化石燃料の関連事業に巨額の公共投資をしたこと、そして岸田首相がCOP27を欠席したことが挙げられています。このことも今年で大きく報道されるようになりました。

若者（ユース）の活躍

下川町でも最近、変化を感じています。それは、SDGsやまちづくりへの関心の高まりです。もともと環境意識が高い町だと感じています。特に今年には学生が「SDGs」やまちづくりに関心を持ち、歩み寄ってもらえる機会が増えました。例えば中学2年生の職場体験、下商3年生の課題研

お問い合わせ
政策推進課
☎ 4-2511-内線235
☆ 4-2511-02

究に携わりましたが、中学生は3年前に作成した下川SDGsマップの更新、高校生は未来を考えたきっかけをつくるイラストを描くなど、若者たちはあらゆる視点で下川町の未来を創っています。



新しもかわSDGsマップを描く
下川中学校2年生

若者は未来世代・次世代ではなく 現役世代

近年、未来のことを考える上で若者の意見が取り込まれていないことが世界的な課題となつています。COP27の会場では若者のイベントスペースが初めて設置されました。また、下川町が7月に参加した国際会議の対談で一緒に登壇した鹿児島大学3年生の中村さ

んは、ドキュメンタリー作品をつくり、社会に影響を与えています。このように、若者は現役世代として課題解決に興味があり、取り組みに力を入れています。私たちが老若男女、同じ時に、同じ場所ですべて生きています。「ありたい姿」の実現のためには、まずは下川町から若者を一人ひとりにして真剣に接し、誰ひとり取り残されない下川町を実現させたいです。

ノーベル平和賞を受賞した元アメリカ副大統領のアルゴア氏は、「世界では60万発もの広島級の原爆を毎日落とされているかのように気温が上昇しており、どんどんひどくなっている。議論はしているが、行動していないため、我々の信頼性が落ちていく。」と強く呼びかけました。自然豊かな下川町に住み続けるためにも、現役世代全員で結束し、よりよい下川町を目指す仕組みが必要です。今年最後は、誰の声が足りないか、現状維持だと誰が困るかを考えながら、私たちの「ありたい姿」に想いを馳せてください。

下川商業高校3年生の「SDGsイラスト」



充実版は公式noteへ

